

## 鵜原岩峰【県連教遭委員会内スキルアップ岩登り講習会】山行報告

(山 域)：房総 鵜原海岸

(コース)：鵜原岩峰

(日 時)：平成 30 年 5 月 13 日 (日)

(天 候)：晴れ (終了後に午後より雨)

(参加者)：会員外 7 名 (全員とも教遭委員)、ya CL【茂原道標山の会】。it 責任者【かがりび山の会】。hi【君津ケルン山の会】。ma【松戸山の会】。take【千葉こまくさハイキングクラブ】。

ko【山の会「岳樺クラブ」】。mu【山の会「岳樺クラブ」】。田中 SL (記録)【ちば山の会】

(山行タイム)：鵜原駅前 8：00 集合⇒駐車場 (6 台位可能) 駐車 8：20☛散策道☛海岸 (岩峰) 8：40  
初級クライミング (教遭委員対象のスキルアップ) 講習を実施☛12：20 終了☛駐車場 12：30

(山行報告)：【開催の経緯】

今回の教遭委員会委員対象のクライミング初級講習会は県連にて高まっているクライミング講習会の開催について、教遭委員会にて開催賛否と講師問題や、行う範囲についての議論となったが、教遭委員の中でクライミングの未経験者も多く、クライミングとは、如何なるものか？知らなければ論議も難しいと結論づいた。

そこで取り合えず、近場の岩場にて初級クライミング講習会を教遭委員対象に行うことになり、今回の体験版講習会開催となった。

委員各位は、今回にて大まかなクライミングを体験できた訳で冒頭の論議に正しい結論が出せる手助けになれば幸いです。

【山行報告】

外房線鵜原駅前に 8 時集合で参加者はそれぞれに車や電車で駅前に集合する。

※これより鵜原岩峰をよく知る yama CL【茂原道標山の会】の案内で行動をする。

全員が集まったところで、車に便乗して漁港手前の釣り客・観光客用の駐車場 (6~7 台可) に車を止め (駐車場が狭く、できるだけ乗り合わせで車を少なくしていく配慮は必要)

駐車場からは少し海岸方面に進むと右に曲がり手堀トンネル (散策道) を経由して展望台方面に歩くとトイレ看板 (右方向) と反対に左の細い下り道があり、これを行くとやがて海岸に降り立つ、眼前に左 (陸側) 右 (島側) に砂岩の岩場が見えてくる。

今回の我々が使用した岩場は大潮で潮が引けた細い岩道を飛び越え、島になっている岩峰にて、クライミング講習を行う。



全員が砂浜で身支度の上でハーネスを付けた後に点検と諸注意を行い、潮の引いた岩を飛び越え、岩壁基部に移動をする。

テラスに着いてから、全員がセルフビレーで安全確保を行い講習会を始める。最初にロープを結びアンザイレンをした後にリードマン～ビレーヤーの役割と心構えを伝えデモとして Ta(リード)～ya(ビレーヤー)で正面中央の壁を登攀し上部の立派な支点 2 か所に確保支点 2 セットを作り、シングルロープ 2 本を下ろしトップロープのセットを行う。左のルートは上部がやや張り出していてバランスを要するルートと右は比較的楽なルートを使い (ただし右は同じ確保支点で最も右によると、かぶり気味のルートが別にとれる) この 3 本のルートを使用して各自がクライミングを体験した。最初のビレーヤーは、クライミング経験者の ya。Ta。ko。mu。の 4 名が担当し、残るメンバー 4 名は岩に初めて挑んだ。



【真剣な表情でのクライミング中の参加者】



皆、初めてでもあり、縦走用の靴の方（クライミングシューズを後に履く）も有りで苦戦していたが、二度ほど登るうちに慣れて来てコツをつかみクライミングを楽しんでいた。



【ビレーヤーの風景】

慣れたところでビレーヤーも体験してもらいビレーの注意点とコツを掴んでもらう。最後に懸垂下降体験として下半分を使い体験したが最初は恐怖で足がすくみ中々一歩が出ない状態であったが、ロープに体を預けることを解るとスムーズに降りることが出来た。



【懸垂下降と登攀風景】

ここまで遣ったところで潮が上がりだしてきたため、急ぎ撤収して往路をたどり飛び越え岩は裸足で潮に浸かった所を渡り陸側浜辺に帰り着く。この岩峰を使う際は潮の満ち引きを確認する必要がある。

【実施した内容】

- ハーネス・カラビナ類の取り扱いと身体へセット
- 50mクライミングロープの種類及び使い方とハーネスへ直セット、岩場の心構え

- マルチ方式でのリードとビレーヤーの役割と登攀デモンストレーション
- トップロープでの登攀とビレーヤーの体験と要領と注意点（支点作りは未実施）
- 懸垂下降体験と要領と注意点
- ロープの収納



【岩峰（島）に渡る浅瀬：干潮時は歩いて渡れる。：ロープ収納実演】



散策道より⇒

【陸地側の岩場】